

・ 養殖アマゴにみられた眼の白濁

養殖アマゴに限らず、眼の白濁症状は他の魚種でも時折みられる。数年前から、アマゴの眼の白濁症状が目立つと聞いていたが、数千～数万尾も飼育してる水槽に元気のない魚や眼が白濁している魚が数尾いても、珍しい話ではないと安易に考えていた。

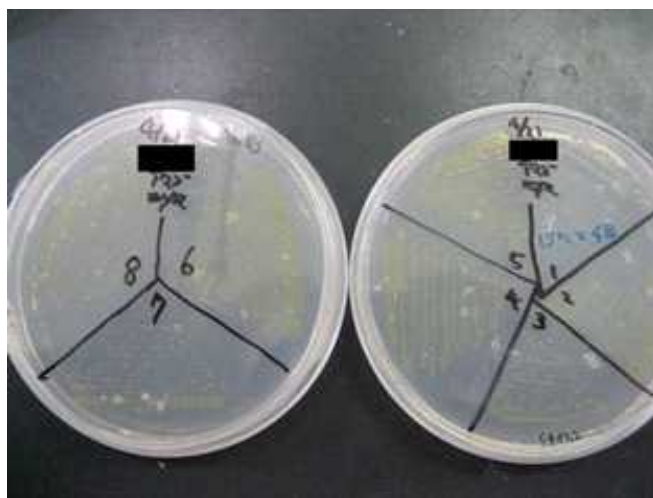
ところが、ある養魚場を調査したところ、眼が白濁した魚が多い水槽で1割以上も確認された。また、県内の18か所の養魚場を調査したところ、同様の症例が5か所でみられた。特徴から^{めじろびょう}‘眼白病’と一部と呼ばれており、死に至ることはないが、見た目が悪く出荷先からクレームがつくことが多い。

原因は不明であるが、これまでの調査から、同じ養魚場で飼育しているイワナやニジマスでは見られず、アマゴのみに特徴的であること、成魚に多く稚魚では見られないこと、白濁症状は片眼のみであったり、両眼とも顕著であったりと様々であること、眼の表面や内部から冷水病菌が分離されるが、体内からは分離されないこと等がわかった。

岡山県を含めて全国的にサケ科魚類(イワナ、ニジマス、アマゴ等)の冷水病が確認されているが、今のところ冷水病菌によって眼が白濁するとの報告例は無いようである。今後は、養殖魚の品質向上のためにも、この原因究明を行いたいと考えている。(内水面研究室：増成)



眼が白濁したアマゴ



眼から分離された冷水病菌
(TYFBS培地, 15℃×5日間)